



森のステーションかめおか 「匠ビレッジ 天然砥石と匠の技」 オープン!

「研ぎ文化と匠の技」の発信

昨年10月、亀岡市交流会館(宮前町)において事業を開始した森のステーションかめおかに、新たな施設として「匠ビレッジ 天然砥石と匠の技」が4月22日にオープンしました。同施設は、和食、伝統建築、日本刀などの伝統文化を支えてきた天然砥石と研ぎの文化の魅力伝える発信拠点です。館内には、砥石の採掘現場をイメージしたオブジェや、包丁・大工道具・日本刀など砥石によって磨かれる道具のイメージブースを設置しており、地元で産出された天然仕上砥石のほか、日本全国で産出された貴重な砥石を集め展示した「天然砥石

▲砥石の採掘現場をイメージしたオブジェ

人類は、有史以前から刃物の技術を発達させてきました。我が国においても、刃物を用いた優れた固有の文化が創り上げられ、その立役者が天然砥石でした。天然砥石で良く切れる刃物に仕上げ、その刃物をめぐるさまざまな文化や日本の繊細な伝統技術が今も各地で数多く受け継がれています。しかし工業技術の発達とともに、人造砥石にその座を譲り、現在天然砥石を採掘している人はわずかとなってきています。京都は、かつて天然砥石の本邦随一の産出地として、日本の文明・文化を支えてきました。今ではほとんど知られなくなつたこの歴史を、こゝ森のステーションかめおかで後世に伝えてま

天然砥石の魅力

展示コーナー」、また自前で持参された切れ味の悪い包丁の研ぎ指導をしてくれる「研ぎ体験コーナー」の常設。市内の匠が作り出した木工芸作品約50点の展示など、砥石や木文化の魅力を十分に堪能できる展示・体験型観光施設です。



▲さまざまな天然砥石を展示



▲包丁などの研ぎ体験ができます

人権擁護委員・行政相談委員の紹介

6月1日は人権擁護委員の日です。人権擁護委員制度は、人間が人間らしく生きていく権利(基本的人権)を擁護し、お互いの人権を尊重し合える社会を築くための制度です。

本市では、次の11人が法務大臣から委嘱を受け、人権相談や啓発活動に活躍いただいています。

(敬称略、順不同)

前田昌信(千代川町) ☎23・0612

杉若恵亮(本町) ☎22・1292

江口昌道(樟田野町) ☎24・0360

あります。あなたも、包丁持参で砥石の魅力に触れ、森のステーションかめおか「匠ビレッジ 天然砥石と匠の技」にぜひお越しください! 詳しくは <http://toishi-kaninfo/>

行政相談委員

行政相談委員法に基づき総務大臣から委嘱される委員で、市民の相談相手として、国など行政の仕事に関する苦情や問い合わせの相談を受け、事案の解決に努めています。本市では、次の2人に活躍いただいています。(敬称略、順不同)

川勝 雅(東別院町) ☎27・2041

伊藤正明(大井町) ☎22・1730

行政相談は、毎月第4木曜日、午後1時30分から4時まで。市役所1階の市民相談室(10月は第3木曜日に市民ホール)で行っています。秘密は厳守しますので気軽に相談してください。詳しくは、市民課市民相談係 ☎25・5005 または、京都行政評価事務所行政相談課 ☎075・802・1100へ

やさしい健康講座 第114回

膵臓について

国立がんセンターの統計によると、2014年の「悪性新生物(がん)の臓器別死因で、膵臓は男性5位・女性4位と年々上昇しています。2012年の人口10万人あたりの罹患率(この病気に罹る率)は、男性29.1、女性25.5で、さらにその死亡率は男性26.9、女性23.8でした。診断されてからの相対5年生存率も、男女ともに7%台と、他のがんに比べて圧倒的に不良です(死因1位の肺癌は男性27%、女性43%)。すなわち、治療が最も困難な「がん」と考えられます。これは膵臓が体の深い所に位置し、他の臓器に隠れているという解剖学的な特性と特有の症状が無いことなど、早期に見つける事が非常に困難な為です。しかし近年、胃癌や大腸癌に有効な抗癌剤治療が膵臓治療にも保険適応になった事や、薬と放射線治療を組み合わせた術前治療で、若干ですが「唯一の根治的治療法である手術」の成績も向上しつつあります。なお膵臓の危険因子としては、糖尿病(特に急にコントロールが悪化した人)、慢性膵炎、肥満、喫煙がありますが、身内に膵臓患者がいるという「家族歴」も重要な因子ですので、気になる方はぜひご相談ください。

市民の皆さんの健康に関して、今回は市立病院の医師が、専門分野についてアドバイスします。

岡山市立病院 消化器センター長兼副院長 天 池 寿
専門分野 消化器一般外科、肝胆膵外科、上部消化管外科、肝臓外科、消化管内視鏡外科